

「ん、んんっ……ここは……？」

窓が無く薄暗い部屋でアスナは目を覚ました。
動こうとするが手足がロープで拘束されているようで動けない。

アンダーワールドで起こった大戦でキリトは目覚めず、
暗黒神ベクタを操るガブリエルに敗北したアスナとリーファはこの部屋に幽閉されていた。

「リーファちゃん、起きて！」

隣でアスナ同様に拘束されて気絶しているリーファに声を掛けると、声で目が覚めたのかリーファがゆっくりと目を開けた。

「……んん……あれ、アスナさん……？　ここは……？んっ、う、腕が……！？」

起きた直後、自分の置かれている状況を理解したらしく体を振り始めるリーファ。
しかしきつく縛られているためか少し動く程度で解ける様子は無い。

その時、部屋の扉の鍵が開く音がして、数人の男が部屋に入ってきた。

「よお、目が覚めたみたいだな」

男達はニヤニヤしながら近づいて来る。

「ここは何処！？他の皆は無事なの！？」

1
男を睨みながら叫ぶアスナに、男はニヤけ顔を崩さずに答える。

「ああ、他のやつらは逃がしちまったみたいだ。捕まえたのはお前らだけだぜ。他のやつらを心配するより自分達の心配をしたらどうだ？」

「どういう意味！？」

リーファが叫ぶと男達が懷から何かの液体が入った注射器を複数取り出し、その針先をリーファとアスナに向ける。

「捕まった女の末路なんて決まってるだろ？お前達はこれから俺達の欲望を満足させる為だけの肉奴隷になるんだ」

その言葉を聞いて二人は絶句する。そんな二人を見ながら男達は更に話を続ける。

「この薬は胸に刺すやつでな。効果は効いてからのお楽しみだが……とりあえずその服を脱いで貰おうか」

「なっ……」

「い、嫌に決まってるでしょ！」

拒否する二人に男達が近づき、無理矢理服を脱がせようとする。

抵抗しようとするが、手足を拘束されているため、二人とも為す術も無く下着姿にされてしまった。

「きゃっ！や、やめてえ……！」

「いやあああ……！」





恥ずかしさのあまり顔を真っ赤にして声を上げる二人を見つつ持っていた注射器を二人の胸に刺して中身を注入する。すると、すぐに効果が現れ二人の身体が火照り始める。

「うあっ……！何これ……体が熱い……！！」

「ひああっ！胸があ……むず痒くて熱い……！！」

二人が悶えていると男達の一人が笑いながら言う。

「効いてきたようだな。そろそろ効果が始めるはずだ」

男が言い終えると同時に二人の胸が大きく膨らみ始めて行き、瞬く間に片方の乳房だけで頭ほどの大きさまで成長する。大きくなる胸にブラジャーが耐えきれず弾け飛び、巨大な乳房がぶるんと揺れながら姿を現した。

「いやあ！！見ないでえええ！！！！」

「な、何これえっ！？私の胸があっ！！」





「すげえだろ？その薬は胸を大きくして感度を上げる効果があるんだ。こんな風にな」

そう言いながら男達はアスナとリーファの胸を鷺掴みにして揉みしだく。
その瞬間今まで感じたことの無い快感に襲われ、二人は声を上げてしまう。

「ひゃうんっ♡ああんっ♡」

「ふああっ♡だめっ♡触らないでえっ♡」

「いい反応だな。これは楽しめそうだぜ」

そう言って男達は胸への愛撫を更に激しくする。その度に二人はビクビクと体を震わせた。
やがて絶頂を迎えそうになったところで男達の手が止まる。

「はぁ……はぁ……どうして……？」

「物足りないって顔してんな？安心しろよ、本番はここからだぜ？」

「そうそう、もっと胸を巨大にして感度も更に上げてやるんだからよ」

先程アスナとリーファに打った注射器を更に複数本取り出すと、それを再び彼女達の胸に突き刺し液体を注入していく。

「い、いやあっ！これ以上おっぱい大きくされたらおかしくなっちゃうう！」

「お願いもう許してえ！これ以上されたら壊れちゃううっ！」

必死に懇願するも聞き入れられず、更に注射を何本も追加で打たれる。そして全ての液体を注入し終えた後、変化はすぐに現れた。

（体験版はここまでです。あと2段階、胸が膨乳されます）